

卒論題目・指導教官一覧

平成6年度卒業生

学生氏名(指導教官) 研究題目

地域文化コース

尼子有紀(中野博文) 19世紀西部開拓民たちの食卓風景
 網谷祐一(金田哲) 動物分類学の諸理論について
 石橋留美子(嶋陸典彦) 日本農村の社会構造—須恵村を事例に—
 井戸田典子(青木孝夫) 『醒睡笑』における笑いの構造
 上田潤子(佐野真理子) イギリスと日本の工場における労使関係の比較
 植松和真(水島裕雅) 「ジャック・ケルアック研究—「路上」における考察」
 宇郷文(朝倉尚) 源氏物語の女性像—紫式部の「思ふこと」—
 牛島静子(佐野真理子) インディアンの教育観と政府の教育観
 折口友子(吉村慎太郎) 「イスラーム社会の女性—現代エジプトの女性問題」
 亀井志織(佐野真理子) 老後の生活とエスニシティ—米国カリフォルニア州の東欧系ユダヤ人1世老人を事例として—
 川村由紀(佐野真理子) 「身体象徴性と社会構造」
 武田律子(佐野真理子) 日系アメリカ人の世代間関係とエスニック・アイデンティティ
 竹村郁子(佐野真理子) 日本人とコメ
 豊崎善弘(園府寺司) フォックス・タルボット研究—発明当時の写真とビジュアルレスク趣味—
 中家さおり(佐野真理子) 母性の選択—1910年代におけるマレット・サンガーの産児制限運動より—
 永田智子(古川隆久) 海軍鎮守府のまちと住民意識—軍給初期の呉を事例として—
 沼田修(藤井守) 善と悪—中国思想にみる善と悪から—
 島上あすか(小池誠) 神楽と社会変化—芸北地方の神楽の変化に関する考察—
 福田淳子(佐野真理子) からゆきさんのイメージと実像
 藤原麻子(谷村夫) 「年中行事に関する一考察」
 古田智子(古東哲明) 幸福を目指す生成—プラトーン『リュシス』を読む—
 町田玲子(金田哲) 都市の喫茶店の文化史—戦後の都市復興における喫茶店の機能を中心に—
 森川千景(園府寺司) 仮面の研究—バブアニューギニア、セビック川流域の事例—
 吉岡秀海(藤井守) 「三国史」の終焉—呉国の滅亡について—
 米山和雄(古川隆久) 大正末期における松本剛吉の政治活動
 六角祐子(楠瀬正明) 「教育面からみた近代日中関係史」
 宇多浩(古東哲明) フッサー『論理学研究』の考察
 金澤光博(原正幸) 松本隆論—歌謡曲について考える—
 川口秀司(水島裕雅) 太宰治作品研究『富嶽け景』—「富嶽景」前半部から後半部へかけての表現上の変化を中心として—
 渋谷崇史(鹿野忠生) ブルースの歴史に関する一考察
 島田恵(福嶋純正) 「コーヒーハウスの文化史」—イギリス、ウィーン、ドイツにおけるコーヒーハウスの発展の違い—

西陽一(岡本勝) アメリカにおけるエイズ・アクティビズムと性問題の考察
 西岡弘勝(古東哲明) 永遠の徴行
 梅田葵(中野博文) アメリカ陪審制と私刑(Lynching)
 亀井克朗(古東哲明) アンドレイ・タルコフスキーの作品研究—映画『ノスタルジア』について—

社会科学コース

上田郁(舟橋喜恵) ロバート・ノージックの最小国家論に関する一考察
 大賀崇矢(森利一) ハワイ作戦と日本海軍の問題点
 大澤一高(富井利安) 「現代廃棄物問題の一考察」—いわゆる「罰則付ボーイ捨て禁止条例」を中心として—
 岡山雅亮(奥村和久) 製造業の国際比較—日本型社会・経済システムはプラスからマイナスに転じたのか—
 奥田恵理子(松岡俊二) 水資源開発の社会的評価に関する研究—温井ダム建設を事例として—
 小野理恵(浜渦哲雄) 「バングラデシュにおける人口問題」
 加藤潔志(水島朝穂) 日本の選挙運動規制の批判的検討—戸別訪問禁止規定を中心に—
 川口健治(岩田賢司) キッシンジャーの「共産中国」に対する認識の変化—政治信条と政策の関係—
 近藤高史(森利一) 「印パ分離独立の政治的環境」
 沢江徹也(鯉坂学) マスコミのイベント・マーケティングについての研究
 塩手直行(水島朝穂) 「日本における民主的選挙制度の考察」
 塩屋紀克(岩田賢司) 「芦田政権の崩壊にみる占領政策の転換—国内冷戦の激化に注目して—」
 竹林明美(鯉坂学) 要介護老人と現代の家族の関わり—高齢社会に対応した家族のあり方—
 中島英樹(奥村和久) 「THEGATT その軌跡と再構築に向けて」
 中村啓(甲斐祥郎) 過労死の救済はなぜ困難なのか—労災補償制度の問題点を中心として—
 西山浩司(市川浩) スウェーデンにおける自動車工業の技術形成—ボルボの経験から—
 野見山次郎(舟橋喜恵) ホップズ主権論の一考察—17世紀イングランドの政治状況から—
 広本修一郎(浜渦哲雄) 岐路に立つ日本の経営
 松倉基弘(市川浩) 「わが国電気通信事業の特徴に関する一考察—NTTの役割を中心として—」
 前川英城(水島朝穂) ドイツ中間層の選択—ワイマル共和国における手工業者と職員—
 梶井浩(森利一) 「絶望的戦いであつたレイテ沖海戦の分析—レイテ沖海戦は決戦といえるのか—」
 矢田将輝(岩田賢司) 欧州政治協力(EPC)とECの相互依存化—ポーランド危機への対応を事例として—
 吉田恵子(奥村和久) 「INIES—その軌跡と現状」
 上小城敬幸(石倉康次) 「モラトリアム」期における大学生の意識とその実態

作本憲昭(甲斐祥郎) 我が国の長時間労働に関する一考察—ドイツと比較して—
 平田祐次(舟橋喜恵) グラッドストンの政策を通してのアイランド・ナショナリズムの考察
 藤原勉(水島朝穂) 戦後西ドイツとナチス追放—非ナチ化、「第2の波」裁判
 林良彦(市川浩) 日本における原子核物理学と原子爆弾開発の評価—GHQ 調書を手がかりとして—

外国語コース

石井志津加(岩倉國浩) 英語の進行形と日本語の「ている」形の対照研究
 上杉浩司(吉田純子) 日系2世少女の自己認識と自己形成
 加来朝恵(要田圭治) 社会批判としての『TheChimes』:ピクチャレスクとファンタジー
 北山久美(岡崎忠弘) ドイツ民話の土の精について
 熊田雅美(上原麻子) 英語を第一言語とする者の日本人のステレオタイプ
 小林亜希子(岩倉國浩) 完了形 have と進行形 be の分布
 下瀬奈緒子(上原麻子) 異文化接触:日米コミュニケーション・パターン
 曾我部弥生(山田純) ニケ国語を用いたストループ色名目課題における干渉
 反木智映子(谷本秀康) 戸田某津子氏による字幕翻訳に関する研究
 出本順子(谷本秀康) 日本の外来語に関する考察
 中神奈子(小野光代) さすらいと若者
 中本順子(要田圭治) 漱石とオースティンの「我執」について
 口文乃(丹治信義) ミハエル・エンデの作品における鏡のモチーフについて
 藤岡知子(伊藤詔子) 『ブライズディル・ロマンス』におけるプリシラのヴェールの意義
 藤澤賢司(伊藤詔子) 『「ハドリバークを腐敗堕落させた男」を中心とするマーク・トウェインの聖書に対するアンビヴァレンス』
 松岡千恵(シュライナー) ジョン・F・ケネディの役割モデル、指導者としてのイメージ変化:1960年代のアメリカ人に対するケネディの人格的、政策的アピールについての研究
 宮本賢治(岩倉國浩) 日本語の被害受身文の研究
 平岡雷太(谷本秀康) アメリカにおけるベビーブーマーと映画の関わりについて
 平島哲(伊東保) 「眺めのいい部屋」におけるフォースターの女性観

数理情報科学コース

秋貞幸雄(山縣敬一) 並列処理における複数三次元多面体の干渉検出
 秋信裕子(山縣敬一) Pascal プログラミングの教育用視覚化処理系の開発と評価
 伊藤久美(原田耕一) ミニマックス法による線分近似
 伊藤誠(正法地孝雄) 成長過程のパターン分類
 内田賢一(阿賀岡芳夫) 等周問題
 金子哲士(水上孝一) 多層型ニューラルネットワークの構築と視覚化のための処理系の開発
 木下裕美子(間瀬茂) 英文推敲支援プログラム作成
 国政守(水上孝一) カオス現象の視覚化
 小林恵美(間瀬茂) ベイズ推定法による画像処理
 小原敬彦(水上孝一) 離散時間ディスクリプタシステムの三階層決定問題に関する研究

小代貴美子(原田耕一) 曲面交線計算のための最適平面パッチ近似
 白石貴大(吉田清) 生存競争の数理
 園田浩(正法地孝雄) ヒトの成長模型の構築
 田中宏毅(浦康政) 振動子の運動方程式と平均化法の適用
 田淵友里枝(原田耕一) 節点位置に依存しない曲面補間方式に関する基礎研究
 中尾聡志(浦康政) 「パルス的に結合された振動子集団のダイナミクス」
 中谷理香(原田耕一) 骨格ベクトル抽出によるフォントの特徴表現
 西田雅彦(阿賀岡芳夫) パッキングと被覆の問題について
 西古昭忠(西井龍映) 多次元データのグラフィック表示
 初山由紀(正法地孝雄) 身体計測値のデータベースの構築
 平澤真樹(山縣敬一) PVM を用いた二次元凸包計算の並列化とその評価
 藤田廣昭(水上孝一) 遺伝的アルゴリズムのニューラルネットワークへの適応
 松本静治(水上孝一) モデル規範型適応ファジー制御器に関する研究
 水野久子(水上孝一) 時変むだ時間をもつ不確定連続・離散動的システムの安定性に関する研究
 宮本香(西井龍映) 統計モデルに基づく2次元画像のスムージング
 山下達雄(山縣敬一) 道案内文と略地図の相互変換システムの開発
 若林晶子(西井龍映) ローカルウィンドウを用いた画像のエッジ強調

物質生命科学コース

東谷陽子(筒井和義) キンカチョウの脳内スプライシングファクター、U2AF65 様タンパク質の検索
 足立貢一郎(内山敬康) 骨髄系血液細胞の増殖抑制遺伝子の研究
 大野貴志(小南忠郎) 大腸菌によるチトクロム P-45017 μ 、Lyase の発現
 大廣義幸(河原明) アフリカツメガエル肝細胞核蛋白質に対するCDNA のクローニング及びその変態期における発現について
 岡野江美(武森重樹) ラット脳の一酸化窒素合成酵素の精製
 金原栄治(山下和男) EQCM 装置の作製と電解重合膜の電気化学的挙動の解析
 香嶋純(藤井博信) ラーベス相化合物の水素誘起非晶質化現象の研究
 小泓正博(渡部三雄) 金属クラスター中の電子状態の理論的研究
 小影久(小島健一) 導電性高分子ポリアリニンの ESR とガス吸着効果新名剛仁(田村剛三郎) 液体イオンにおける光誘起現象—巨大高分子の生成—
 西崎有利子(渡部三雄) 前軟骨細胞の増殖を調節する自己分泌因子群の解析
 不二草泰暁(安藤正昭) 海水ウナギの飲水行動におけるアンギオテンシンとヒスタミンの役割
 山中泰治(岡野正義) クアシノイド化合物の単離と反応性の検討
 檜山徹(好村達洋) 酸化物高温超伝導体の低磁場下臨界温度付近における輸送現象

松葉淳一(武田隆義) 規則合金の秩序形成過程

自然環境研究コース

天野年崇(浅井富雄) 低気圧に関する総合的試験

大野耕作(堀越孝雄) 広島県におけるアカマツ放葉林の群集構造

大森秀美(中根周歩) 黒瀬川支流における河川の自然環境評価—水質と景観から—

大森誠紀(福岡義隆) わが国における酸性降下物質の地域的・季節的特性

加藤朋美(藤原祺多夫) 磁気光学効果を用いた環境試料中での多環芳香族の検出に関する研究

金川裕充(米田巖) 四国における気候地名に関する地理学的研究

川口優子(中根周歩) 大気汚染による樹木器官(葉) への影響

木村訓明(内海和彦) 対流圏大循環と太陽活動の関係に関する研究—主として11年周期変動との関係について—

小竹敬久(日下部真一) 伸長成長に関わる細胞壁結合タンパク質の精製及び同定

斉藤あずさ(根平邦人) 自然攪乱がブナ林の林床植物に及ぼす影響

酒井良葉(浅井富雄) 大気境界層の日変化に関する数値モデリング—霧の発現に注目して—

澤田典子(櫻井直樹) 植物の根の成長とセルロース合成に関する研究

高見朗(佐久川弘) レーザー分光による大気中微量化学種の高感度測定の実験

津島淳生(佐田公好) 岡山県川上郡備中町における石炭〜二疊系石灰岩と二疊系砂岩層の関係

中石光彦(中越信和) アカマツ林とコナラ林における材積と土壌環境

中越康友(開発一郎) TEM 波 TDR 法の樹木水分量測定への適用に関する基礎研究

中里元(福岡義隆) 都市キャニオンにおける風向・風速に関する研究—小気球とインターバルカメラによる観測の実験—

中村友紀(開発一郎) 「西条盆地黒瀬川流域の河川水質と流出特性」

中山雄介(富樫一巳) カラフトヒゲナガカミキリの産卵生態とその産卵痕を通してのマツへのニセマツノザイセンチュウの伝播

濱田文子(中越信和) 浜畔域におけるニセアカシア林の動態—松本市大沢川の事例—

日笠隆(根平邦人) 広島県立もみのき森林公園の利用と植生変化

増田康子(櫻井直樹) 植物体内のインドール酢酸の局所的分布に関する研究

松木佳奈子(原茂樹) 大気および天然水中シュウ酸の高速液体クロマトグラフィーによる測定

南川智美(藤原祺多夫) ICP 質量分析計による降雨水中の微量元素の定量

三松崇(富樫一巳) 年輪生長量の年々変動と気象条件との関係に関する研究

三宅隆之(佐久川弘) 大気中二酸化炭素および酢酸の定量およびその

炭素同位体比の測定

柳井明美(堀越孝雄) ライシメーターを用いた土壌環境制御の試み

山西敏道(早瀬光司) 「1つの社会システムを実験系として行う環境監視とその方法論に関する研究」—引き続きオストランド社をモデルとして—

山本亜希子(林七雄) オオゴマダラの誘引物質に関する研究

東晃史(海堀正博) 1993年豪雨による東広島周辺の林道での土砂災害に関する研究

上村浩(佐藤博明) 鬼界アカホヤ噴出物の岩石組織に関する研究

生体行動科学コース

井出正明(生和秀敏) 確認強迫傾向の高低がリアリティ・モニタリングに及ぼす影響についての検討

稲村信子(西村良二) フェミニズム意識が身体満足度と自尊心の関係に及ぼす影響についての検討

岩間祐子(堀忠雄) 入眠期の心理的体験と脳の活動状態との対応について

江原喜人(山崎昌廣) 体脂肪分布パターンからみた脊髄損傷の特徴について

金城聡子(宗岡洋二郎) プラナリアの生理活性ペプチド

五島昌史(黒川正流) 集団同一視が自尊感情の回復にはたす役割について

佐藤暢哉(坂田省吾) ラットの脳内電気活動記録による記憶神経機構の研究

真田博司(菊地邦雄) ウォーミングアップの違いが有酸素運動及び無酸素運動に及ぼす効果

澤田佳代(生和秀敏) 他者からのフィードバックが自己呈示場面における自己評価に与える影響

潮見かおり(西村良二) 対処方略が健康状態に及ぼす影響についての検討

芝宏治(黒川正流) 大学生の自己概念の構造

田島誠(調枝孝治) 5:3 ポリズム産出の学習ストラテジー

田野健治(調枝孝治) 漸増負荷時における心拍増大のパワースペクトルと主観的運動強度の関係

中原満子(黒川正流) 集団間地位の正当性が内集団ひいきに及ぼす効果の検討

西節子(岩永誠) 音楽の印象に及ぼすテンポの効果

前田亜佐子(難波敏二) リンパ節疾患の統計学的研究(生検材料364件の解析を中心に)

政時祐子(黒川正流) 課題の性度測定の試み—性度判断に及ぼす性別同一性および性別役割態度の効果

松下武志(菊地邦雄) アルコール摂取が有酸素運動に及ぼす影響に関する実験的研究

陽真哉(堀忠雄) 動機づけがウルトラディアンリズムに及ぼすマスキング効果

元尾篤(磨井祥夫) 歩幅と歩調が歩行のエネルギー消費量に及ぼす影響

諸木陽子(岩永誠) 音楽の好みが情動反応に及ぼす影響

吉田利絵子(岩永誠) 不安状況における課題の作業量減少のメカニズムについて

金城正寿(磨井祥夫) 学生のスポーツ観の違いに関する研究

学部記事

新任教官紹介・人事異動

新任教官紹介

Alice Hamilton Luther (外国語コース助教授)



Alice Hamilton Luther is a graduate of the University of New Brunswick (B. A. English), the University of Idaho (M. A. Theatre Arts) and the University of Minnesota (PhD Theatre Arts). She has an extensive background as an actor and director for stage and film in North America, and recently spent a semester at Hokkai-Gakuen University (Sapporo) as a visiting professor in Canadian Studies. Her research interests include Developmental Drama and Oral Interpretation, and she is currently an Associate Professor of Theatre Arts with the School of Fine Arts at the University of Lethbridge (Alberta, Canada).

デキキス・ジョー (Joseph DeChicchis)

(外国語コース助教授)

本年4月1日付けで東京の国際基督教大学より転任して参りました。国際基督教大学では言語学、主に音声学、フィールドワーク理論、手話、それから歴史言語学を教えておりました。アメリカとヨーロッパで勉強した後、ペンシルベニア大学より1989年に言語学博士号を取得しました。元来の研究はマヤの言語で、最近台湾の原住民の言語の研究に従事しております。中米、台湾の文化について勉強したい学生は、お気軽に研究室を訪ねてください。

魚が大好きなので、毎日のように瀬戸内海のとれたての魚をおいしくいただいています。残念ながらまだこの辺りを見てはいませんが、来学期からは妻と一緒に観光をしたいです。特に、西条の酒祭りや牡蛎の季節は今から楽しみです。

もし私がブルーバールを古い自転車で行っているのを見かけたら、どうぞ声をください。皆様宜しくお願いいたします。

小池 聖一 (社会科学コース助教授)

4月1日付けで外務省外交資料館から転任して参りました。専門は、社会政治外交史で、主に戦



間期の海軍軍縮、軍政などについて研究を行って参りました。現在は、転換期における「連続性」をテーマに、満州事変前後について研究を進めるとともに、戦中・戦後の日本外交史(対外経済政策)に関して勉強しているところです。外務省外交資料館では、「日本外交文書」という資料集の編纂を行い、対中国政治・経済関係を担当していました(1929〜31年)。「日本外交文書」という本はとっつきにくいかもしれませんが、直に図書館等で手にとって見ていただければ幸いです。

住まいは、大学と目と鼻の間のところです。この点、四月まで住んでいた東村山(志村けんで有名)から、勤務先の最寄駅神谷駅まで、1時間50分かかっていたのとは大違い、健康のために歩いて通っています。また、サリン攻撃もなく一実際、もう少しで吸うところでしたー、今は、腹一杯、オゾンを吸って身も心も頭も「浄化」させつつ、山国・スイス生まれの妻共々、生活を満喫しています。

最後になりましたが、総合科学部に迎えていただき、大変、栄光に思っています。今後、私自身、総合科学部の「総合」性から多くを学んで行きたいと思っています。よろしくおつきあいください。

崔 吉城 (地域文化コース教授)



学部はソウル大学師範大学国語科(韓国語)において、特に古典文学に関心をもち、そこから民族学に深い興味を覚え、高麗大学大学院に進学し、民族主義詩人であり民俗学者でもある趙芝薫先生に学び、卒業後、国の文化財専門委員となりフィールドワークに努め、さらに民族学の理論を学ぶために日本に留学し、成城大学や東京大学などで日本民俗学、社会人類学を学び、筑波大学の歴史・人類系にて文学博士号を取得し、韓国・啓明大学日本大学へ移り、東アジアの社会と文化、社会、比較文化論などを担当していた。本学にはこの4月に転職し、主な関心は東アジア社会の比較研究である。シャー

マニズムを始め、宗教の歴史、構造、最近史における日韓関係の上で最も悲劇である植民地史に関心を持ち、「日帝植民地と文化変容」という編著を出した。政治的な面からではなく、植民地という事実が韓国社会や歴史にどのような影響を与えたのかという点に焦点をおいている。それは第二次大戦まで世界的に不変的な現象であり、世界的に比較することも当然必要となってくる。今現在、まだまだ日韓両国においては植民地に対してタブーが厳存しており、それが社会的に問題になっているように学問的にも客観的な研究はなされていない状況である。私はそのタブーを乗り越えて学問的にそれに証明を当てたい。韓国のある島である漁村にて現地調査を通して研究中でありこれと並行して中国の東北地方においても現地調査を行い、在日朝鮮、韓国人社会との比較研究を進めていきたい。そこで主題になるのはナショナリズムである。

藤澤 裕子（生体行動科学コース助手）



4月1日付で着任いたしました。専門は神経生物学で、動物の行動の神経的基盤を生理学的・生化学的実験手法を用いて解明していくことがテーマです。現在

は軟体動物の筋を材料に、その運動が、神経から出される情報伝達物質である神経ペプチドによってどのように制御されているかを研究しています。

私は総科の卒業生で、大学院修士課程を修了後、日本チバガイギーという医学・化学品会社の基礎研究所で4年間研究員をしていました。4年ぶりの総科は、キャンパスも移転しており、また、学生と教官という身分の違いもあってか、古巣に戻っ

て来たというよりまったく新しい職場という感じが強いですが、緑が豊かで落ち着いた環境でこの西条キャンパスで快適に生活を始めました。楽しみながらよい仕事をして足跡を残して行きたいと思っています。

奈良 重俊（数理情報科学コース教授）



本年4月1日付で岡山大学工学部電気工学科より転任して参りました。岡山大学では、学部では電磁気学、物性工学などの講義、大学院では神経回路網のカオス

を用いた新情報処理様式の研究とそのデバイス化の検討などの研究・教育を行ってきました。本学では情報学、情報理論、形式言語理論、人工知能などの講義を担当し、大学院では神経回路網の処理様式、またそこにカオス的なダイナミックスを導入して新たな処理、制御様式の発見を期待しての研究・教育を行う予定です。専門として既存の分類法では名称を付けにくいので自分で“Physical Infomatics”なる専門名をつけて研究に頑張っています。そのせいでしょうかこれまでに、大学は異なりますが三種類の学部（工・理・本学総合科学部）での研究・教育、企業勤め、外国暮らし、企業勤め中の官民共同プロジェクトや科学技術庁プロジェクトへの出向、などなど近來希に見る多彩な社会経験？を積んだ人間です。新たな邂逅のもと、皆様と語り合う機会をもてるのを期待して赴任して参りました。西条は酒どころと聞いておりますが、小生も嫌いな方ではありませんのでその方面のおつきあいを含めてどうかよろしく願いいたします。

編集後記

早瀬光司（教官編集長）

はからずも2年続けて『飛翔』編集長をおおせつかることになった。昨年度に劣らず今年度も紙面の充実に尽力したいと考えていたが、幸い学生編集長も昨年後期に2年生でやってもらった篠崎君が留任したので、比較的連絡や段取りもよくできたと思う。ただ学生編集委員が主体となって企画した特集「私たちは平和問題に対してどう関われるのか？」についてはテーマが少し大きすぎたせいもあって、どうまとまっているか、その評価は読者のみなさんにお任せする。

私自身の編集長としての重要な仕事の一つに「社会からの声」の原稿依頼があるが、本号では東広島市市民部長の渡邊さんに執筆をお願いした。市役所へ同っての会談で大変気さくな人柄の方との印象であったが、寄稿していただいた文にもそれがよく表れていて、なおかつ広大生を叱咤激励されていて大変うれしく感じられた。

その他にも多くの教職員学生から、エッセイなどに内容豊かな寄稿文が得られ、十分な読みごたえがあると感じられた。

最後に3年生、2年生、1年生とも学生編集委員に精鋭が集まり、連絡も密に協力し合えたことが、本『飛翔』49号の最大の収穫であったことを申し添えたい。

篠崎陽平（学生編集長、地域文化コース3年）

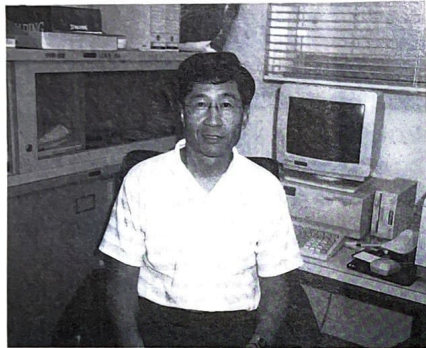
2年生の編集委員が頼もしいので、安心して編集長を降板することができます。がんばっていい飛翔を作ってください。

武田淳子（物質生命科学コース3年）

もっと外へ出て調べてまわるべきだったと反省しております。次回はがんばります。

谷淵茂樹（外国語コース3年）

去年とはうってかわって毎日が休暇のような前期を過ごした。飛翔も代替わり（というときまた仕事を投げ出している様に聞こえるかも知れないが）、新しい風が入ってきたら澁んだ古い風は消え去るのみ……



みんな良く頑張ってくれました



はじめはきれいだった机も…



すぐにちらかる。「かたづけな、あかんで！」

小野ゆかり（人間文化コース2年）

動物とたわむれることにはストレスを解消する作用があるそうです。飛翔の編集室に猫を持ち込んだ私は編集委員の皆様に感謝されるかも……。

照屋敦（人間文化コース2年）

必勝を期して飛翔に参加し、非常な努力で取り組んだが、常に自身の能力の卑小さを思い知らされ、さらには非情にも襲いかかる睡魔・無気力・メ切的圧力との闘いも余儀なくされ、それはもう必死よー。始めから不満の残るデキになることは必定と覚悟してはいたが、とにかく仕事を終えた今、解放感から微笑をもらしているところである。まあ、こんなところでいっしょなんて不精な気分になってしまいそうだが、やはり貴重な紙面の内容をより充実させるため、不断の努力が必要だと避暑編集室で考える今日この頃である。

渡邊忠信（社会科学コース2年）

戦争と平和に関して、いいかげん「もうよか、考えとうもなか（もういい、考えたくもない）」と思うぐらいの時間を費やして考え、話し合いました。頭がオーバーヒート状態です。「広く浅く」の総合科学がこんなにたいがいものとは思いませんでした。専門領域に閉じこもる人の気持ちがちょっと理解できたような気がします。楽でいいわ、うん。

三輪誠一郎（1年生）

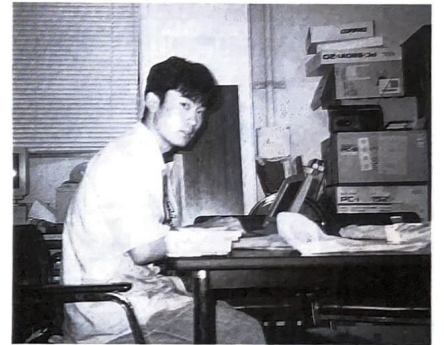
ほとんど何も仕事をやらなかったけれど、とにかくとても疲れました。編集会議の議論はとても高度な内容（比喻を多用したもの）で理解するのが大変でしたが、いろいろな面でたになりよかったです。

石川幹子（1年生）

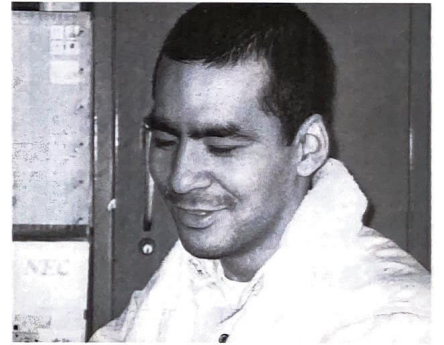
今回は何も手伝うことができなかったの、次回は編集室に顔ぐらいは出したいと思います。みなさん、本当におつかれさまでした。



編集中期、話しあいにつかれた編集委員



編集作業も後半、パソコンに原稿をうちこみ



お疲れさまでした

編集委員

教官：早瀬光司（編集長、自然環境研究コース助教授）・園寺寺司（人間文化コース助教授）・富樫一己（自然環境研究コース助教授）・林光緒（生体行動科学コース講師）

事務：頼田武男（学生係長）・上代裕久（学生係）

学生：篠崎陽平（学生編集長、地域文化コース3年）・田中裕子（物質生命科学コース3年）・武田淳子（物質生命科学コース3年）・谷淵茂樹（外国語コース3年）・照屋敦（人間文化コース2年）・渡邊忠信（社会科学コース2年）・長谷川誠之（社会科学コース2年）・原森義則（外国語コース2年）・小野ゆかり（人間文化コース2年）・野田忠幸（1年）・三輪誠一郎（1年）・足立智弘（1年）・石川幹子（1年）

伝言板・募集

●卒業生への通信

今まで「飛翔」は卒業生の全員に郵送してきました。しかしながら、卒業生の数も2,300名を超え、それに要する経費も、印刷費、郵送費あわせてかなりの負担になってまいりました。

そこで広報委員会の審議によりまして、来年度(1996年度)の第51号からは卒業2年目以降の方に対しては、希望者にのみ郵送することになりました。費用は無料ですので、引き続き、「飛翔」の郵送を希望される卒業生は12月末までに下記の住所宛にハガキでご連絡ください。

〒739 東広島市鏡山1-7-1 広島大学総合科学部飛翔編集委員会

●読者からの手紙

●私の紙面批評

- 卒業生の方、近況を教えてくださいませんか。きっと在校生の役に立つ情報をお持ちでしょう。
- 「飛翔」の紙面で、なにか疑問な点や不満な点があったらお知らせください。今後、検討させていただきます。
- もちろん、「おもしろかった」という感想も期待しています。

●表紙の絵・写真を募集

●エッセイの投稿

●研究室紹介

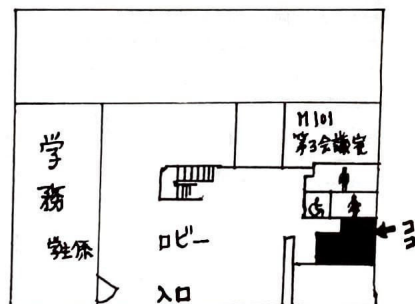
- 写真・絵の得意な方、あなたの腕で「飛翔」の表紙を彩ってください。
- かわった体験をされた方、海外などに旅行に行かれた方、留学生の方、エッセイに投稿してみませんか。
- 紹介希望の研究室はありませんか。研究室側から、学生側からお寄せください。

●意見箱の設置

- 取り上げたら良さそうな特集テーマがあったらお知らせください。
- またなにか情報がありましたら、お知らせください。

投稿などは以下宛に持参又は郵送してください。

飛翔編集室の場所



事務棟 1階

住所：〒739 東広島市鏡山1-7-1
広島大学総合科学部飛翔編集委員会

総科夏まつりから



色気たっぷりのせ・な・か